

## 会 議 錄

全部記録 要点記録

<b>1 会議名</b>	第1回 姫路市すこやかセンターのあり方検討懇話会
<b>2 開催日時</b>	令和7年11月12日（水曜日） 15時30分～17時00分
<b>3 開催場所</b>	姫路市役所本庁舎10階 第2会議室
<b>4 出席者又は欠席者名</b>	出席者6名、事務局
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可、傍聴人 3人
<b>6 議題又は案件及び結論等</b>	姫路市すこやかセンターのあり方検討について
<b>7 会議の全部内容又は進行記録</b>	議事要点については別紙参照

事務局	開会（15：30）
事務局	挨拶
事務局	<p><b>委員及び事務局の確認</b></p> <p>配布資料の確認 「会議次第」  「姫路市すこやかセンターのあり方検討について」  「名簿」  「配席図」  「開催要領」</p>
B委員	本日は、姫路市の将来を見据えたセンターのあり方について、議論をさせていただきたいので、委員のみなさまにおかれても、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いしたい。
事務局	本日、取材にお越しの記者から、懇話会の状況を撮影したいとの申し出があった。撮影を許可してもよろしいか。
B委員	ただいまの事務局から説明のあった申し出について、何か意見等がある委員はおられるか。
	(異議なし)
B委員	<p>なければ、撮影して差し支えない。</p> <p>それでは、会議次第により進めていきたい。</p> <p>本日の進行は、まず「次第2」について事務局から説明を受けた後、意見交換を行いたいと考えている。「次第2」の「姫路市すこやかセンターのあり方検討について」事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p><b>次第2 姫路市すこやかセンターのあり方検討について</b></p> <p><b>資料説明</b></p> <p>資料1 姫路市すこやかセンターのあり方検討について  ①あり方検討懇話会概要</p>

B委員	<p>ただいまの事務局からの懇話会の進め方について提案があった。意見、質問等はないか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>引き続き事務局より説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p><b>資料説明</b></p> <p><b>資料 1 姫路市すこやかセンターのあり方検討について</b></p> <p><b>②現状分析</b></p>
事務局	<p>現状分析の説明は以上となるが、意見交換からリモート参加の委員がおられるため、少し準備のお時間をいただきたい。</p>
B委員	<p>事務局からの提案について、異議はないか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>それでは、事務局側で準備をお願いしたい。また、この後、委員の皆さんから、ご質問やご意見をお願いしたいと思っている。ご発言の準備をお願いしたい。</p> <p>(16時10分議事中斷)</p> <p>(16時25分議事再開)</p>
B委員	<p>それでは、議事を再開する。</p> <p>委員の皆さんから、ご質問やご意見をいただく前に、まず、私の方から事務局へお聞きするが、先ほどの現状分析を踏まえて、市の内部で何か考えや思いはあるのか。</p>
事務局	<p>私自身、すこやかセンターは、利用者が多く、非常に賑わった施設というイメージを持っていましたが、改めて今回、現状分析を行った結果として、1、2階部分の利用者の固定化がみられ、想像以上に限定的であることが分かった。</p> <p>すこやかセンターの整備時のコンセプトは、平成12年4月から介護保険制度が始まる中で、介護予防の拠点として、誰もが年齢や体力に応じて手軽に健康づくりに取り組めるとともに、介護予防の観点を強く意識した健康づくり事業や高齢者の生きがいづくり事業としていた。</p> <p>それから20数年経った現状として、少子化を背景として生産年齢人口は減少して</p>

	<p>おり、また、医療・介護の専門職の担い手の確保は困難となっている一方で、介護ニーズの高い85歳以上人口は2035年にピークを迎える。本市では、85歳以上の高齢者の67%が要介護認定を受けており、今後も介護サービスの需要増加が見込まれる。</p> <p>このようなサービス需要の変化に対応し、持続可能な介護保険制度を実現していくためには、各地域の困りごとやサービスを各地域で解決できる仕組みである「地域包括ケアシステム」を深化させ、医療・介護・予防・生活支援等の包括的な確保を図っていく必要がある。また、「地域包括ケアシステム」を深化させることは、全ての地域において、高齢者が適切に介護や医療等のサービスを受けながら自立して日常生活を営めるよう、地域の実情に応じた効果的・効率的なサービス提供体制を確保することに繋がるものと考えている。</p> <p>現状の施設運営では、この課題解決に十分対応できていないのではと考えている。</p>
事務局	<p>3階部分について市の見解を説明する。</p> <p>3階の子育て支援施設については、近年、駅前すぐすぐひろば、のびのび広場みらいえを開設するなど、すこやかセンターの設置当時と比べ、大きく周辺の状況が変化している。その中で、継続・統合・移転等を総合的に判断する必要があると考えている。</p>
B委員	<p>承知した。事務局からの説明があったように、まずは、すこやかセンターの1階部分について、委員のみなさまから、質問や意見をお願いしたい。</p>
B委員	<p>&lt;資料の確認について&gt;</p> <p>資料について、確認したい点がある。校区登園事業の内容が少し分かりにくかつたため、もう少し詳細に説明してほしい。</p>
事務局	<p>校区登園は、すこやかセンターと楽寿園の2か所で実施している。老人クラブの会員が校区単位で集まり、市が所有するバスで、すこやかセンターと楽寿園それぞれ年3～4回程度通い、教養講座・健康づくりに関する体操などを行っている。老人クラブの会員の方と意見交換する際に伺った話では、校区登園は老人クラブ活動の中でも、最も大事な活動と位置付けられており、高齢者の方の外出機会を設けることで、社会参加や介護予防に繋がることから、重要な事業であると市でも認識している。</p>
B委員	<p>校区というのは、どういった区域か。どのくらいの校区が参加しているのか。また、資料1の20ページのグラフ中、令和6年度の校区登園利用者7,114人は、実人数か。</p>
事務局	<p>小学校区としており、72校区のうち、53校区が参加している。</p>

事務局	7,114人は、延べ人数である。楽寿園においても、同じぐらいの方が参加している。
C委員	<p>&lt;障害者の利用状況について&gt;</p> <p>1階の利用者について、利用者数が減少しているが、一方で、新たな利用される方はいるのか。</p>
事務局	正確な人数は把握できていない。繰り返し利用されるリピーターの方が多いと、指定管理者からは聞いている。
C委員	<p>開設当初から、障害者の利用者が大幅に増加しているが、何か理由はあるのか。</p> <p>また、障害のある方が、どのように利用されているのか気になった。どのような目的でどのような利用をされているのか分かれば教えてほしい。</p>
事務局	すこやかセンターが使いやすい施設として、障害者の方の認知が増えたのではないかとは思う。どのように利用されているか、手元に資料はないが、身体障害者の方で、プールを利用されている事例は把握している。
C委員	平成14年度から令和6年度の利用者が3,383人から6,680人に増加していることから、障害者の方にとっては使いやすい施設ではないかと思う。多世代というコンセプトだけを考えると、利用状況はそれに即したものではないが、コンセプトをいろいろな思いを持った市民の方々が利用できるといった趣旨として捉えるのであれば、障害者の方が利用しやすいプールを維持するという考え方もよいのではないかと感じた。
事務局	<p>本市の公共施設において新規整備・大規模改修を行う際は、ユニバーサルデザインを取り入れているため、他の施設を含めた活用も検討していくことができると考えている。</p> <p>例えば、現在、建設が進められているスーパーアリーナでは、設計期間中にユニバーサルデザインワークショップを開催するなど、障害者の方にとって、より使いやすい施設とする取組を進めていると聞いている。</p>
B委員	資料1の15ページの表では、平成27年から令和6年の間に障害者の利用者の方は3割減となっている。
事務局	平成14年当時の人数は延べ人数であり、実人数は把握できていない。

	<p>&lt;高齢者の利用状況について&gt;</p> <p>A委員 大規模改修に合わせて、改修費用等と見合った利用料金とすると利用者の減少が見込まれる。利用料金を引き上げるのであれば、改修だけではなく、何らかの機能を増やさなければ、利用者の増加を見込めないのではないかと感じた。</p> <p>先ほど、他の委員からあった障害者の方の利用という視点が重要ではないか、という意見は、私も同感である。</p> <p>若い利用者が激減している理由としては、周辺に他の施設ができたということであるが、もう一点、姫路市では、各地域でいきいき百歳体操等の活動に積極的に取り組まれているとも聞いている。</p> <p>利用者が減少している理由として、先ほど説明があった以外の要因が何かあるのかお聞きしたい。また、これまで多くの市民の方が利用されてきたが、新型コロナウイルス感染症以降、利用者が回復していないとのことだが、これまでの利用者は、いったいどこに行ってしまったのか、もし、分かるようであれば教えていただきたい。</p> <p>なお、これは、以前の調査になるが、人間がアクセスしやすいと感じる距離として 250m が一つの目安であり、1km を超えるとなかなかアクセスしにくいという結果があったため、お伝えしておく。</p>
事務局	すこやかセンターの営業時間が 21 時までであるため、若い利用者にとっては、24 時間営業の民間施設の方が利用しやすいと感じているのではないかと考えている。また、委員から、アクセスしやすい距離についてお話をあったが、すこやかセンターに限ってであれば、駐車場の利用台数が多いことから、比較的広い地域から来場している方が多いように感じる。
A委員	高齢者の方が地域活動の方へ流れているという可能性はあるのか。
事務局	委員のご発言のとおり、いきいき百歳体操については、グループ数・参加人数も年々増加傾向にあり、高齢者の方が地域に出向いているということも事実である。もう 1 点、高齢者のライフスタイルの変化によって、高齢者の就業者数は年々増加傾向にあり、すこやかセンターに通う時間がとりににくいことも、利用者が減少している一因ではないかと感じる。
事務局	私自身が施設を見て感じたことではあるが、若い方のプールの利用が減っている原因として、学校など一般的なプールのコースは 25m であるが、すこやかセンターは 20m のコースとしており、高齢者の方や障害者の方にとっては利用しやすいが、若い方にとっては物足りなさを感じるのでないかと思う。

	<定期券購入者の利用状況>
D委員	資料の 16 ページを見ると、定期券の実購入者数が 734 人とのことだが、繰り返し利用されるリピーターが多い状況なのか。定期券購入者の平均利用回数が 149 回であるが、営業日が 306 日ということであれば、734 人の定期券購入者が 2 日に 1 度程度通われている状況という認識でよいか。
事務局	委員ご指摘のとおり、いわゆるリピーターやヘビーユーザーといわれる方を含めた 734 人である。
D委員	かなり限定された方が利用されているといえる。定期券購入者の中で、一般、高齢者、障害者の区分ごとの人数は把握しているのか。また、障害者の方も、いわゆるヘビーユーザーがいるのか。
事務局	高齢者、障害者は 1/2 減免の対象であるため。発券名簿を確認すれば、把握はできるものと考えている。
事務局	サービスプログラムの教室に通われている方は市でも把握しており、積極的に利用されている障害者の方もおられるという認識である。
D委員	定期券購入者が全体の延べ人数 3/4 を占めているということであるなら、利用者全体として、かなり固定化されている傾向があると見てよいか。
事務局	そのとおりである。
D委員	資料の 12 ページを見ると、令和 6 年度は 1 億 1,667 万 4 千円の歳出超過となっており、かなり限定された方に、多くの公費を投じているのではないか。有用性や効果性という観点からは、厳しい部分があると思われる。
事務局	ご指摘の通り、一部の利用者のために、多くの税金を使っているというのが、現状の分析結果から分かることだと認識している。
	<ひめじスーパーアリーナに関すること>
D委員	将来的な話ではあるが、新たにひめじスーパーアリーナを建設し、総合スポーツ会館の機能を移転させる方針とも伺っている。仮に、すこやかセンターが廃止とした場合、総合スポーツ会館・すこやかセンター両方の利用者を収容することは可能か。

事務局	<p>ひめじスーパーアリーナに限らず、公共の類似の健康づくり施設として、網干健康増進センター、香寺温水プール、夢前福祉センターなどもある。また、市の周辺地域に関しては、民間の健康づくり施設も少ないが、すこやかセンターの所在する市の中心部に限ってであれば、民間施設による代替えも十分に考えられる。</p> <p>障害者の方に限った部分になるが、障害者の方のひめじスーパーアリーナの利用料金については、他のスポーツ施設と同様に 1/2 減免とすると聞いており、代替えの一つとなり得る認識である。</p>
D 委員	<p>先ほど、他の委員から、人間の心理的に、一定の距離を超えるとアクセスしにくいというお話もあった。すこやかセンターの利用者については、もし、すこやかセンター以外の場所に通うのであれば、網干や香寺、夢前よりも、まず、手柄のひめじスーパーアリーナと比較すると考えられる。</p>
事務局	<p>収容人数の面からは、民間施設とスーパーアリーナ等の活用により、大きな問題は生じないと考えられる。</p>
C 委員	<p>&lt;すこやかセンターの経営状況について&gt;</p> <p>資料 1 の 6 ページをみると、すこやかセンターの利用者が過去 10 年間で 2 割減少しているとのことだが、利用者数の減少は大きなポイントだと思う。資料 1 の 12 ページには、直近 5 年間の決算状況について示されているが、利用者が多かった平成 27 年度の決算はどういう状況であったのか。</p>
事務局	<p>平成 27 年度決算でも、運営経費が歳入を上回る歳出超過の状況であった。</p>
C 委員	<p>平成 14 年 4 月の開設以降、歳入が運営経費を上回ったことはあるのか。</p>
事務局	<p>歳入が運営経費を上回ることは、過去になかった。</p>
C 委員	<p>歳出超過について、過去から税金で補填しながら施設運営を続けていたということであれば、かなり厳しい状況ではないかと感じる。</p>
F 委員	<p>&lt;他の施設の利用状況について&gt;</p> <p>参考資料で他の公共施設の利用料金が示されている。利用者目線としては、安さと通いやすさのバランスから、どこを利用するのか決めていると考えられる。資料 1 の 6 ページをみると広畠トレーニングルームの利用者が増加しているが、何か要因はあるのか。</p>

事務局	金額面も考慮されると思うが、距離やご友人の方からの口コミが通うきっかけとなっているように思う。
事務局	所管課から、広畠トレーニングルームについては、平成31年度から指定管理者制度を導入していると聞いている。指定管理者が様々な運営の工夫をされているのではないかと推測される。
D委員	今までの意見をまとめると、1階は定期券購入者が多く、利用の多い高齢者の方等はさらに1/2減免の対象となる。実質的に、民間施設よりかなり安価に利用ができる。
F委員	歳出超過を改善するのであれば、定期券購入者よりも、1日券利用者を増やす必要があるということになるのか。
B委員	そのようになる。しかしながら、委員の発言にもあったように、運営経費を補うため、歳入を増やすのであれば、相当な人数の利用者の増加が必要となる。
<利用者の男女について>	
E委員	利用者の男女比は分かるのか。高齢の女性は比較的地域の交流の場に出かける傾向があるが、高齢の男性はそういった場に参加することが少ない。すこやかセンターが、男性の高齢者が目的を持って通える場所であるのなら、貴重な場であると思う。
事務局	性別ごとの利用状況を把握していないため、正確な人数を示すことはできないが、プールはやや男性が多く、スタジオでのサービスプログラム参加者は女性が多い傾向がある。
E委員	プールの男女比は分かるのか。
事務局	感覚的な答えになるが、施設を見学した際は、6:4で男性が多かった印象である。
<多世代交流について>	
C委員	施設のコンセプトのひとつである多世代交流について、例えば、交流イベントを実施するなどの条件を指定管理者に示しているのか。
事務局	指定管理者からは、利用者の交流の場を持つようなイベントの提案があり、1階ロビーで実施している事例はあるが、2階老人福祉センターについては、条例で日中の利用者を60歳以上に限定していることもあり、十分な機会を持てているとはいえない。

B委員	議事の途中であるが、終了予定時刻となったため、本日はここまでとしたい。第2回の進め方について、事務局より何か提案はあるか。
事務局	<p>第2回は、2階老人福祉センターの意見交換を中心に進めさせていただきたいと考えているが、検討を進めるにあたり、老人福祉センターの機能である高齢者のいきがいづくりや居場所づくりについて考える必要がある。</p> <p>現在、本市においても、介護予防を推進しているが、2040年に向けてより一層積極的な推進が求められている。</p> <p>これからの中介予防は、機能回復訓練などの高齢者本人へのアプローチだけではなく、生活環境の調整や、地域の中にいきがい・役割を持って生活できるような居場所と出番づくりなど、高齢者本人を取り巻く環境へのアプローチが重要となる。</p> <p>そこで地域や社会に参加し、住民が地域でつながる状態に向けた支援も重要なテーマであり、地域のつながりの希薄化に対する予防は、介護予防の対応に不可欠であると認識している。特に高齢者の孤独・孤立、ひきこもりが介護リスクを高めている要因であると考えている。また、毎年調査しているが、単身高齢者数が年々増加している現状もある。</p> <p>次回は、高齢者のいきがいづくりや居場所づくりに対する市の考えを整理し、説明させていただくことで、より活発な意見交換につなげていきたいと考えている。</p>
B委員	事務局からの提案について、意見、質問はあるか。 (異議なし)

閉会（17：05）